

出席：小佐野・山中・石川・小西・三角・松村・高橋・神野・池田・堀之内、(藤村(全国理事))

1．夏季大学

当日のスケジュール、準備するものを確認した。実行委員の時間調整を行って、後日詳細な分担を決めることとした。広報については、大阪府教育委員会教育振興課・関西予報士会などに協力いただいたことが報告された。

募集状況・テキスト発注状況を確認した。当日の台風等による異常事態時には、実行委員会事務局主催者から当日緊急に受講者に開催中止の連絡をすることで検討を行った。

2．メールアドレス集約と支部ニュース通知

第 26 期第 2 回総会出欠はがきにより、支部会員のメールアドレスが半数程度は集約できた。今年度末にむけてさらに集約し、最終的には人海戦術で最終的にかなりの数を集約することとする。メールアドレスのリストを作成して、8 月の支部ニュースから、通知を行っていく。

3．支部会員の種別化

支部総会の成立に支部全会員半数の出席・委任を収集することが困難な状況にある。本部では普通会員と特別会員の種別化を行っている状況下で、関西支部でも本部の種別化を準用し、支部会員の種別化を行うように次回総会で提案する。本部の種別化と関西支部での種別化は厳密には等しくないの、会員の申し出により変更可能とする。

本部に種別化リスト転写送付を要請する必要がある。

4．2005 秋季大会関連

第一回実行委員会で確認したように、寄付金は募らない。賛助金については、本部リストの線で募る。賛助金募集についての趣意書を検討した。支出の面でも会場費の削減について交渉しており、当初予定の 100 万円ほど募らなくても赤字にはならない見込み。

シンポジウムの進行状況の報告と任務分担を再確認した。

本部による最終的な不足金額の補てんは隼かではないらしいが、最終的な収支の報告を本部から求められている。

次回実行委員会は 9～10 月予定。直前の 11 月の実行委員会は、会場準備作業になる見込み。

5．支部ニュース第 250 号

支部ニュースを 8 月中旬頃に発行予定。

項目は、理事会・総会・年会の報告、夏季大学報告、支部例会講演会のお知らせ、経費節減についてなど。地区理事への支部例会講演会の日程催促の必要がある。

6．調査研究奨励金、研究グループ助成金

最近 2 年間、募集しても申請が無い状況である。対象を広範囲にしたことでもあり、また気象学会の外部へのアピール手段でもあるので活用する。

7．支部会員増の対策

支部会員が減少傾向である。経費の面からも会員増にする必要はある。「天気」の紹介、調査研究奨励金・研究グループ助成金の活用、予報士会・気象台職員の加入呼びかけは有効である。夏季大学等での加入案内も行う。